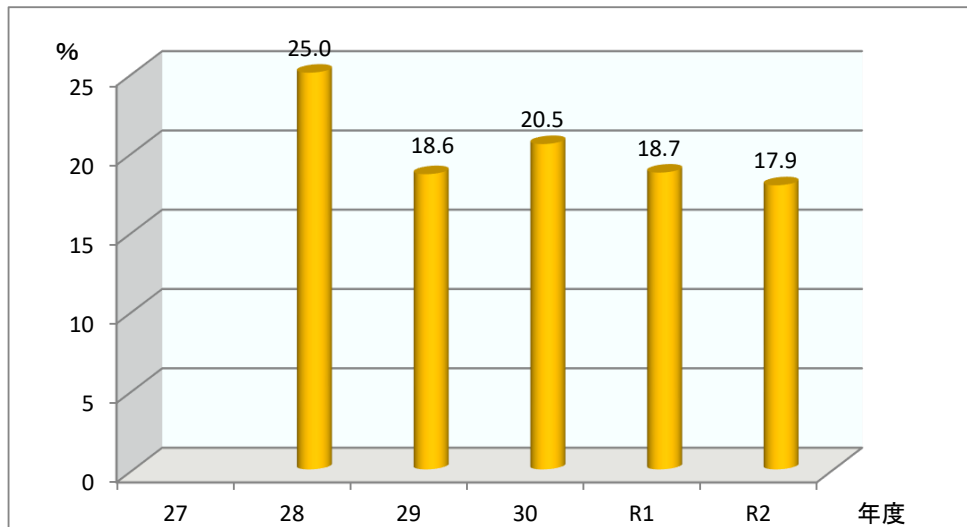


16 黄色ブドウ球菌に占めるMRSAの割合

解説

MRSA(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌)は、医療関連感染を起こす代表的な菌で院内で最も頻度の高い耐性菌といわれています。
MRSAに代表される耐性菌の感染拡大防止には標準予防策に加えて接触予防策の実施が重要といわれており、それらの感染対策実施評価として、MRSA分離割合を数値化し評価します。

実績



自己点検評価

厚生労働省が策定した「薬剤耐性(AMR)アクションプラン」において、検出率20%以下を目標としており、R2年度は目標値を達成した。
当院では医療従事者一人ひとりが手指衛生を遵守する等、感染対策に対する取り組みを行っている。
引き続き感染対策の遵守を周知していく。

定義

対象年度1年間のMRSAが検出された患者数÷MRSAを含む黄色ブドウ球菌が検出された患者数で算出した割合を%で表示します。
※平成30年度より追加した項目

算式

分子:MRSAが検出された患者数
分母:MRSAを含む黄色ブドウ球菌が検出された患者数